Sunday School クラスルーム

日本キリスト教団 荻窪清水教会 日曜学校だより No.27 2022. 9. 25 発行

神さまに呼ばれたら

サムエル記上3章1－14節

ごきげんよう！ 牧師 梅津 裕美

この春から学んできた旧約聖書で、荒れ野の40年も、士師の時代も、神さまが教えてくださったのは「主なる神さまの教えから右にも左にもそれてはならない」ことでした。

それに続く時代に、ハンナという女性がいました。子どもが授からず、辛い思いをしていました。ハンナは祈りの人で、「もしも男の子が与えられるなら、神さまにお捧げします」と祈りました。神さまはそれをかなえてくださって、サムエルという男の子が誕生します。サムエルは約束通りに神さまの言葉が納められた箱がある神殿に捧げられて、祭司エリに育てられました。日本で言えば「一休さん」のような感じでしょうか。

ある夜、サムエルが寝ていると呼ぶ声がしました。「ここにいます」と答えてエリのところへ行くと「呼んでいないよ」と言われます。それがなんと三度も繰り返されたのです。とうとうエリは事情が分かってサムエルにこう言います。今度呼ばれたら、「どうぞお話ください。僕は聞いております。」と答えなさい。・・・すると四度目に神さまが来られて再びサムエルの名前が呼ばれます。「サムエル、サムエル」。サムエルは教わったとおりに答えます。「どうぞお話ください。僕は聞いております。」すると神さまは、神に背いた人々への厳しい裁きをお告げになりました。そのお言葉は迷い出た人々を神さまのもとへと招く、無くてはならない導きの言葉でした。

わたしたちは礼拝でサムエルと同じ経験をします。神さまに呼ばれ招かれて、そして「お言葉をください」とお答えし、神さまが私たちを救って正しい道に導くお言葉をいただくのです。時にそれは厳しいお言葉かもしれません。でも、そのお言葉で神さまを敬う正しい道に導かれるとはなんと幸せなことでしょう。

堀内長老からのメッセージ

9月8日の朝日新聞に50年前、東南アジアのベトナムでの戦争で爆撃により大やけどを負った少女の今の心境についてのインタビュー記事が載っていました。当時9歳のキム・フックさん（1963 年生まれ、現在カナダ在住）が大やけどを負って逃げる様子を撮影した写真は世界に大きな衝撃となりました。その後キム・フックさんは、戦争を起こした人や逆にそれに対抗する政府の宣伝に使おうとする人に恨みを抱き、からだの傷み以上に心の痛みに苦しみました。ところがある時、聖書の「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい。」（マタイ5：44）に出会いました。すぐには理解できませんでしたが、キム・フックさんは「私はこうして生きている。そう前向きに考えることで気持ちが軽くなってゆきました。怒りや痛みは小さくなっていきました。ゆるすことで救われてゆきました。」と語っています。聖書のみ言葉は大きな苦難の中にある時、私たちの心を平安へと導きます。前に進もうという思いを与えてくれます。キム・フックさんの話しからその思いをいっそう強くしました。